

## シンポジウム「卒業論文作成を振り返って～大学で学ぶということ～」

卒論題名「**貧困母子家庭の現状と専門職による支援の課題**」

### \*題名テーマ設定までの経緯

このテーマに絞るまでかなり時間がかかった。**貧困が与える子どもへの影響、家族崩壊**について研究したいと思っていたが・・・文献を読み進めたり、実習で出会った子どもたちのことを考えていると、「貧困」「虐待」「母子家庭」というキーワードが私の中で強く残りこのテーマ設定した。

### \*文献集め

ここからが大変！！ テーマ決まって、文献集めををはじめると興味関心が膨らみすぎて軸がぶれまくりました。文献集めは、本を読むのももちろんなのですが、雑誌記事や、論文をマガジンプラスで検索し、集める作業。めんどくさいけどすごい面白い記事も多くあって一番勉強になった気がする。

### \*主張と結論までの流れ

母子家庭の就業率が80%を超えていく中、ワーキングプアと呼ばれる環境の中であるのに対し、母子政策はシングルマザーがさらに働くことを要求している。これでは、子育て中の母親なのではなく、養育費を稼ぐための母親である。

阿部（2009）より、6歳未満の子どもを育てながら働いている母子家庭の育児時間は一日平均46分という調査結果。

母子政策は公的扶助による支援から就労を目指す支援から就労を目指す自立支援に軸足を移した。

しかし、就労支援が強調して進められていく中で、それだけでは、母親子どもともに追いつめることになるのでは？**子どもを大切にしない国に未来はない。**

親の雇用状態や社会保障の負担の増減、保育所等の子育てサポートに重点を置くべきなのである

・ 貧困母子家庭を孤立させない！！

・ 子どもに焦点のあてたソーシャルワーク

↓

↓

シングルペアレントサポーター・ブログの活用情報提供

義務教育としての学校という関わりの存在である  
スクールソーシャルワーク  
生活保護世帯以外の家族を支援する  
ファミリーソーシャルワークの必要性

### \*感想

興味関心が膨らみすぎてしまい、収集がつかなくなった。

若年者の出産、家族観やりたいことはいっぱいあった。

自分との戦い、大学の学びの集大成・卒論妥協しないように！！

引用参考などの文章の基本的な書式

ほんとにパソコンとにらめっこした一か月；；

終わったあ★やっと国家試験の勉強できる

### \*大学4年間の学びを振り返って

1・2回生の取り組みがあつてこそ今。すべてつながった気がする

ディスカッションを大事にすること・出会えてよかった仲間

### \*一年生にメッセージ

感受性を豊かに、アンテナを張りまくろう。逆算して、計画立てていこう・無我夢中

私も空閑先生には迷惑をかけてしまったので話しづらいんですけど。卒論を無事に出せました。私の卒論の題名は「貧困母子家庭の現状と専門職による支援の課題」にしたんですけど、これは実習を終わってから、ずっと考えていたんですけど、テーマに絞るのに時間がかって、はじめは「親か与える子どもへの影響」とか「家族崩壊」を書きたかったんですけど、具体的にいろいろ考えたり、文献を読むにつれて「貧困、虐待、母子家庭」を中心に書いていこうと思いました。実習で出会った子どもとか、児童自立支援施設に行ったんですが、3分の2以上の子どもの家庭が生活保護を受けていたり、家庭環境にも問題がある子どもたちが多くて、実習中にも、私が昼に電気をつけたりしていたら「無駄使いするな」と怒られたり、先生に対しても「こういうことはムダ使いやから許せない」とか、お金に対してもシビアだったり、言葉でも感じたので、貧困と、しんどい環境にいる子どもたちのことを書いてみたいなと思いました。自分が将来、何ができるかと実習に行き行って考えたので「専門職による支援の課題」を卒論で書きたいなと思いました。文献を集めるんですが、テーマを決めるのも遅くて、貧困、虐待とか、どっちもデカくて、文献を、むちゃ、見たんですが、見れば見るほど、ぐちゃぐちゃになって、大変でした。

マガジンプラスをゼミの子に聞いて調べたんですが、資料が一杯出てきて、めっちゃ、面白くていろんな記事があって、それを読むことで満足して進まなかったです。やり方としては資料をアンダーラインを引いて、そこで自分が、どんなことに興味があるか、共通点を出していけばいいと教わって、そういう流れでやっていこうと思いました。

何回か、ゼミでも卒論の発表をするんですが、そのたびに皆に笑われたり、「そんなんではできへんで」と言ってもらったり、いろんな人から注意してもらったりして、やっとできたという感じで「卒論って、大変だな」と思っていました。

私の主張と結論までの流れですが、母子家庭の就業率が80%を越えるのに、国の政策は母子家庭に働くことを押し進めている感じで、実際、6歳未満の子どもを育てながら働いている母子家庭の平均育児時間が、1日46分というのを見て「考えられへんわ」というのを書いて「子どもを大切にしない国に未来はない」と主張しました。

感想ですが、興味を絞ることが、なかなかできなくて大変だったのと、もっと主張したいことがいっぱいあって、若者の出産とか家族観とか、やりたいことがいっぱいあって、できへんかったことを後悔したり、もっと勉強したいなと思いました。卒論は、自己満なもので、先生は最初から最後まで、あたたかく見守ってくれたんですけど、自分で妥協しようと思えば、できるのかなと思うものなんですけど、皆にも刺激されたり、周りの論文を読んで、もっと頑張りたいと思ってやりました。

ずっとパソコンに向かって大変やったんですけど、終わった後は、やってよかったし、論文自体は満足はしていないんですけど、勉強したことには満足しました。

大学4年間の学びを振り返って思うのが、1、2回生の時は自分で福祉のことを何もわかってないし、「何を勉強しているんやろ」と思っていて、1回生としゃべっていた時も、「私も同じことを考えていたから大丈夫」と言っていて、3、4年生で実習に行ったり、具体的に授業を進めていく中で、1、2回生で、やってきたことが全部使えているなと感じて、皆がやっていることは意味ないことはないし、実際、先生の授業に入

って「1回生の時から、先生、こんなことを言ってくれていたんや」と思うことがあるんで、パッと聞き流してくれたらいいんですけど、どこかに残っているはずなんで、1、2回生は「今やっていることは無駄やわ」と思わんで、課題にされたことも、ちゃんやってほしいなと。小クラスのディスカッションを大事にしてほしいなと思います。このメンバーは今しかないし、小クラスは、来年はまた違うクラスになるし、今しかできない勉強を授業でやってほしいなと思いました。

1回生へのメッセージですが、学生の間にしておくことは、利益を求めずにやっていくことなんかだと先輩も言っていて、社会人になったら、言いたいもといえへんし、何もできへんみたいというので、若い人には感受性を豊かにしてほしいなと先輩の話を聴いたり、私も、そう感じて、いろいろ思ったことがあれば、すぐ動いてほしいと思います。授業もアンテナを張ってください。実習とか教育実習とか行くと思いますが、3年生の夏に行かないといけないし、秋になったら就活が始まるし、2回生しかないと思って、長期休暇とか、大きなことをやろうと思ったら、春休みになるので、それを逆算して、いろいろ計画を立ててやってほしいなと思います。以上です。

# 貧困母子家庭の現状と専門職による支援の課題

19062020

生駒 理佳

<キーワード> 「貧困母子家庭」「虐待」「貧困の世代的再生産」

## <梗概>

本論文では、貧困世帯のなかでも特に深刻な母子家庭の家庭状況に焦点を当てて考察を行っていきたい。貧困を背景に起こる子どもの社会問題も多く発生し、家庭崩壊による子どもの成長を遮るもの、子どもたちの生きづらさについて述べていきたい。また、世代的再生産される貧困家族の現状、またそれをどうくいとめていくのか、早急に働きかけていくことが必要とされる。

筆者は、子どもの貧困を考える上で家族全体をケアしていくソーシャルワークの視点が必要だと考える。児童自立支援施設での実習や、NPOの関わりの体験を踏まえて、母子家庭の母親の社会的排除の視点や母親の声も踏まえ、子どもの奪われた権利を取り戻すために子どもへの福祉政策、ソーシャルワークはどう介入していくのかを述べていきたいと思う。

## <目次>

はじめに

### 第一章 貧困母子家庭の現状

第一節 母親の就労の現状

第二節 若年離婚のリスク

### 第二章 貧困がもたらす子どもへの影響

第一節 機会の不均等と生きづらさ

第二節 貧困がもたらす虐待

第三節 少年非行の背景にある貧困

### 第三章 貧困の連鎖を断つために専門職としてできること

第一節 母子家庭をめぐる政策と課題

第二節 スクールソーシャルワークの可能性

第三節 ソーシャルワークにおける課題とこれから

おわりに